

## 基本情報

- ◆ 認定年度: 2018(平成30)年
- ◆ 設置時期: 2018(平成30)年8月
- ◆ 実施部局: 高等研究院物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)
- ◆ 相手方機関: ウィタヤシリメティー科学技術大学院大学 (VISTEC)
- ◆ 設置タイプ: アウトバウンド型
- ◆ 設置目的: 両国の化学・材料基礎研究分野の発展および当該分野に通じた研究者の育成
- ◆ 設置場所: ウィタヤシリメティー科学技術大学院大学 (VISTEC) (タイ・ラヨン)
- ◆ 活動内容: エネルギー・環境問題解決に資する新材料の創出と技術開発/若手研究者育成と人材循環

## 活動による大学全体への波及効果

- 現地企業を含めた国際共同研究の発展
- 優秀な留学生獲得
- 現地学生への教育、サマースクールの提供
- 国際共同学位(JD・DD)プログラムへの発展
- ベンチャー起業
- 現地滞在あるいはオンラインを通してタイ国各地方に存在するトップレベルの大学の学部生に対してアピール、優秀な学生の獲得を見込む。
- VISTECがPhD学生に提供している1~2年間の海外留学システムを活用し、VISTECをハブとした全世界の関連トップラボとの連携強化や共同研究を開拓。
- 獲得しているタイ国研究グラントの継続・発展、および複数の研究組織からなる新たなコンソーシアム研究体制の構築。

## 活動概要



- PhD学生の研究指導と産官学への輩出
- 持続的ラボの構築、運営
- プロジェクト立ち上げ、外部資金獲得



## 2024年度の主な活動実績

**① 材料・化学分野の研究推進、および人材育成・輩出**

- VISTEC内の研究グループとの協働等を通じた、研究成果発表。2024/1/1－2024/12/31 の期間において、トータル10報(含5報のNature index誌)を発表した。
- VISTEC海外留学プログラムやオンサイトラボ経費を活用し、欧米の主要研究グループへの派遣と共同研究体制の強化を行った。現在ハーバード大に留学中のTeerat Watcharatpong氏はその能力が評価され、博士号取得後に引き続きハーバード大で博士研究員として勤務することが決まった。また学生はいずれも海外学会に参加、発表させ、研鑽を積ませる試みを進めた。
- 当該オンサイトラボで活躍したNattapol Ma博士(2022年Ph.D.@京大)、Soracha Kosasang博士(博士研究員～2024)がいずれもNIMS 若手国際研究センターのICYSリサーチフェローとして栄転し、それぞれのラボを主宰することになった。Ma氏は2024年度の井上研究奨励賞を受賞し、人材育成や我が国の研究力強化に成功した。

**② 持続的ラボの構築のための試み | プロジェクト立ち上げや外部資金の獲得**

- 学科に所属し、講義を担当。入学審査に参加し、学生の配属に関わることで毎年の学生受け入れ体制を構築。2025年度も1名の新規学生の獲得に目処をつけた。
- JST-PMU「日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業」において、日本－タイ共同研究として申請した「プロトン伝導性金属－有機構造体を用いた中温水電解技術の開発」が採択された。本課題はVISTEC MSE学科のKanokwan Kongpatpanich博士と行うものであり、VISTECラボ全体の強化、研究推進をサポートするものである。